



小郡市立大原中学校 令和7年12月2日 第30号

大原中学校だより

「自走」と「協働」と「主体性」 校長 野中文明



【学校教育目標】自分の人生をよりよくするために、自分で考え判断し行動できる生徒の育成

男子バレー部が中体連筑後地区大会に挑みました。皆さんには、まだまだ強くなれる！

県大会出場まであと一歩

11月15日（土）に中体連筑後地区新人バレー大会が大牟

田アリーナで開催されました。新人大会は、夏の総体と違い、各ブロックの1位（久留米ブロックは2位まで）だけしか出場できません。合計8チームで県大会出場の3つの枠を競います。1試合目に勝利し、迎えた準決勝でしたが、惜しくも敗退・・・。3位決定戦に回り、ここで勝てば県大会出場！というところでしたが・・・あと一歩のところで叶いませんでした。残念ですが、県大会出場は、来年の夏まで持ち越します。負けることはつらいことです。しかし、強くなるためには必要なことです。「あと1点が取れていれば」結果は変わっていたかもしれません。「たった1点・・・」でも、私はその1点の差が実は簡単なことではないと思っています。その1点のために新チーム結成以来、4か月を費やしています。1点のためにそれほどの大きな時間の積み重ねが必要だということです。そして、そのたった1点を取ったチームと取れなかったチームでは、結果は大きく変わります。力を持っていたかどうかではなく、力を發揮できたかどうかです！強くなるために自分達に本当に必要なことは何なのか？そのことに出会ってほしいと思います。この日を忘れないでください。来年の夏こそ県大会に行きましょう！



自分はどう成りたいのか？

実は同じ日にバスケットボール部も別の会場で、バスケットボールの地区大会の運営を補助役員として支えてくれていました。よく係の仕事をこなしてくれて、スムースな大会運営に協力してくれていました。本当にありがとうございます。併せて、目の前で地区大会の試合を見ることのできるとてもいい機会になったのではないかと思います。ところで、係の仕事の合間にちょっと質問をしてみました。「来年、ここで自分たちがプレーしているイメージが沸く？」するとこんな答えが返ってきました。「無理です。身長が足りません。」無理もありません。初めて見る地区大会で、自分達よりも大きな人間が、早く・力強く・上手く・正確にプレーしているのですから・・・。その後、私は体育館を出て、別の会場に移動したのですが、その時の会話が気になっていました。

- * 地区大会に出たいかどうかではなく、出ることができるかどうかを考えている・・・？
- * 1年後の自分ができるかどうかではなく、今の自分ができるかどうかを考えている・・・？
- * 身長が大きいかどうかだけで、勝てるかどうかを考えている・・・？

私たちは、現実を目の前にして、今の自分とのギャップを感じることがあります。「これは無理だ・・・」

と思うことがあります。皆さん、そのときどうしていますか？地区大会で目の前で試合を見た人たちが、**どう成りたいと思って、その後の毎日の練習に臨んでいるのか**楽しみです。

まもなく2学期が終わります。3学期のためにやり残しが無いようにしましょう！

3年生の皆さん、全員で乗り越えましょう！

いよいよ12月です。2学期のゴールが見えてきました。2年生は、すでに修学旅行の取り組みが始まっています。1月には、6年生を迎えての入学説明会が行われます。今の1年生が説明会に来て、もう1年が経とうとしています。3年生は、三者面談で受験校を決定し、追い込みに入っています。中には「今、ちょっときついなあ・・・」と感じている人がいるかもしれません、**全員で乗り越えましょう！必ずやり遂げられます！3人のレンガ職人という話を紹介します。概要は、以下のとおりです。**

旅人が、ある町外れの一本道を歩いていると、道の脇で一人の男が辛そうな顔をしてレンガを積んでいました。旅人はその男に「ここで一体何をしているのですか？」と聞きました。すると、「レンガを積んでいるに決まっているだろ。なんで、こんなことばかりしなければならないのか、まったくついてないね。」もう少し歩くと、一生懸命レンガを積んでいる別の男に出会いました。旅人は、また尋ねました。「ここで一体何をしているのですか？」「俺はね、ここで大きな壁を造っているんだよ。この仕事のおかげで、俺は家族を養っていけるんだ。」また、もう少し歩くと、別の男が楽しそうにレンガを積んでいました。「ここで一体何をしているのですか？」旅人は尋ねました。「俺は、歴史に残る偉大な大聖堂を造っているんだ。ここで多くの人が祝福を受け、悲しみを払うんだぜ！素晴らしいだろう！」

この話の設定を授業の場面に置き換えて、解釈するとこんな感じでしょうか？

1番目のレンガ職人：授業があるから受けているだけだ。なんでこんなことしなければならないのか？

2番目のレンガ職人：高校に行くために授業を受けているんだ。高校に行くためには必要なんだ。

3番目のレンガ職人：自分の人生をより良くするために必要なことを学んでいるんだ。将来、〇〇になって、より良い世の中へ変えるんだ。

皆さんは、「学ぶことの目的」や「学ぶことが自分を成長させること」につながるということをどのように捉えているのでしょうか？また、自分の人生を「**目の前の事だけという短期的**」に考えるのか？「**高校入学までのちょっと先までの中期的**」に考えるのか？「**一生という長期的**」に考えるのか？・・・どれでしょう？

人が見ていないとき・・・どうしますか？

先日、2年生の道徳の授業を見に行きました。内容は、「鳥取砂丘の美しい景観が観光客によ

る落書きで損なわれているという実態があるので、落書きを防止するために規則ができた」ということを扱ったものでした。みんなでいろいろな意見を出し合の中で、「落書きを見て嫌な気持ちになる人がいなければ、落書き防止の規則は要るのか？」ということを話す場面がありました。皆さんは、どう思いますか？私は、日々、朝の5時くらいにジョギングを行うのですが、最近は日の出も遅く、その時間はまだ真っ暗です。車もほとんど通りません。通行人もいません。私が走っているコースに1ヶ所、信号付きの横断歩道があります。そうです・・・赤信号で渡っても**誰も見ていませんし、誰にも迷惑はかけません**。実は、赤信号で渡ろうとしたことがあります。何歩か出たのですが、とてもモヤモヤしました。そして・・・戻りました。気持ち良くなかったんです。私は、**人が見ている、見ていないに関わらず**、同じことができる人でありたいと思いました。砂丘の落書きも同じではないでしょうか？**「どういう人でありたいか？」**これが**その人の行動を決める**のだと思います。私もまだまだ未熟です。でも、今も成長したいと思っています。

